

平成30年(2018年)10月22日

関係各位

防府市長 池田 豊

2019（平成31）年度 予算編成方針について

1. 国・県の状況

国の2019（平成31）年度の概算要求では、「経済財政運営と改革の基本方針2018」で示された「新経済・財政再生計画」の枠組みの下、引き続き手を緩めることなく本格的な歳出改革に取り組むため、施策の優先順位を洗い出し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化することとされている。

今後の経済動向については、2018（平成30）年9月の月例経済報告において、「景気は、緩やかに回復している。」としているものの、先行きについては、「通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。」とされている。

また、2019（平成31）年10月に消費税率10%への引き上げが予定どおり実施され、増税による景気悪化を防ぐため、臨時・特別の措置を講じることとされている。

一方、県においては、県政が直面する課題の克服に向けて、「産業維新」、「大交流維新」、「生活維新」という新たな「3つの維新」に取り組むとともに、厳しい財政状況を受け、2021（平成33）年度まで行財政構造改革を集中的に進めることとし、歳出構造改革や臨時的・集中的な財源確保対策等により、「財政健全化」に並行して取り組むこととされている。

2. 本市の財政状況と見通し

2017（平成29）年度決算にみる本市の実質収支は、財政調整基金からの18億円取り崩しなどをおこなった結果、前年度とほぼ同程度の約12億円の黒字を確保したものの、実質単年度収支は4年連続の赤字となり、赤字額は前年度から倍増し、約11億4千万円となっている。

これに伴い、財政調整基金の残高は、前年度から約11億5千万円減少し、約36億9千万円となり、第四次防府市総合計画の目標指標に掲げている、2020（平成32）年度末の財政調整基金残高20億円を達成できない懸念がある。

また、財政の硬直度合いを示す経常収支比率についても、2017（平成29）年度においては、扶助費の増加や廃棄物処理施設整備に係る元金償還開始による公債費の増加など、経常的な歳出が増加したことに加え、法人市民税の減少等により経常的な収入が減少した影響も受け、比率は99.2%と前年度から5.2ポイント上昇し、自由度がほとんどない状態となっている。

2019（平成31）年度の財政見通しは、歳入面では、企業業績の回復等により、法人市民税や設備投資に伴う固定資産税の増収が見込まれるものの、海外の経済情勢等の影響による景気の下振れリスクなど、先行きには不透明な要素も多い。

歳出面については、少子高齢化に伴う社会保障関係経費の増加や、既に着手している学校改築事業などの普通建設事業が本格化することに加え、猛暑に対応するための小・中学校教室へのエアコン設置や、防災拠点ともなる市庁舎の早期建替えなど、市民の安心・安全の確保に向けた取り組みも積極的に進める必要があることから、2018（平成30）年度を上回る財政負担が見込まれている。

また、「中期財政計画」の将来見通しでは、財政負担軽減に向けた対策を

講じなかった場合、今後5年間で約80億円の歳出超過となる、厳しい収支状況である。

3. 予算編成の基本的な考え方

これまでの予算編成においては、多額の財政調整基金を取り崩し、収支の調整をおこなってきたが、このまま取り崩しが続いた場合には、財政調整基金が枯渇することから、早急な対策が必要である。

一方、厳しい財政状況下にあっても、市民の安心・安全の確保は第一であり、また、将来にわたって住み続けたいとなる、活力あるまちづくりを進めるための施策についても、重点的に取り組む必要がある。

このことを踏まえ、2019（平成31）年度当初予算編成にあたっては、財政健全化への取組を推進するため、「中期財政計画」で定めた3年間の“集中取組期間”の初年度として、歳入・歳出両面における対策を強力に推し進めるとともに、限られた財源を最大限活用し、子どもから高齢者まで、笑顔と笑い声の絶えない「明るく元気で豊かな防府市」を実現するため、次の三点を予算編成の基本方針とする。

<基本方針>

1 持続可能な行財政基盤への転換

- ・ 歳入に応じた歳出構造へ転換を図るため、全ての事業についてゼロベースでの見直しを行い、より良い施策となるよう再構築を図り、選択と集中により効果的な施策を展開すること。
- ・ 施策の立案にあたっては、国・県等の補助事業の活用を図ることや、ネーミングライツの導入など、歳入確保に積極的に取り組むこと。
- ・ 「防府市行政経営改革大綱推進計画」に掲げた取組項目を着実に推進し、効果を予算要求に反映させること。

2 地方創生に向けた取組の推進

- ・ 「防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる諸施策については、計画期間の最終年度を迎えることから、費用対効果などを検証し、地方創生に向けた、効果的な取組を進めること。

3 重点施策の推進

- ・ 市民生活の安心・安全に関する事業、産業の振興に関する事業、地域活動の活性化に関する事業など、市民生活の向上を図るため真に必要な事業については、実効性の高い施策となるよう予算要求を行うこと。

2019（平成31）年度予算編成要領

予算要求に当たっては、以下の事項に十分留意すること。

（基本的事項）

- 1 2019（平成31）年度当初予算は、従来の全事業一件査定から、平成30年度予算をベースに経費の性質ごとに仕分けを行い、一部の経費について、税等一般財源の収入見込みに応じて、部単位で要求可能な一般財源を配分する方式に変更するので、部単位で調整を行い、配分された枠内に収まるよう要求すること。

事業開始後3年を経過した事業については、原則全事業を見直しの対象とするので、事業目的や成果目標など事業開始に至った原点から見直しを行ない、必要に応じて新たな事業として所要額を計上すること。

新規事業については、事業見直しにより捻出した一般財源範囲内で要求を行うこと。ただし、重点施策に係る新規事業および大規模修繕等の臨時的な事業については、必要性、費用対効果、実施時期等を十分検討の上、別途要求をすること。なお、重点施策に係る新規事業および臨時的な事業については、全件一件査定とする。

歳入予算については、制度変更や過去の収入実績に応じ、適切に計上を行うこと。

（総合予算）

- 2 総合予算として編成し、年度内の予算不足に対し補正による対応は原則おこなわないので、年間見通しに基づき、予定されるすべての収入及び支出を的確に把握し、計上すること。

(総合計画との整合性)

- 3 事業選択に当たっては、「第四次防府市総合計画」との整合性を図りつつ、市民生活の向上に資する事業であるか、事業の目的や必要性、有効性等の観点からゼロベースで見直しを行い、所要の額を計上すること。

(まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進)

- 4 総合戦略の推進にあたっては、計画最終年度を迎えることから、進捗状況や計画策定時からの状況変化について分析を行い、効果的な実施方法や適正な事業規模、計画期間終了後の取り扱いについて検討を行い所要の額を計上すること。

また、十分な成果を既に挙げたもの、若しくは残存期間で成果を挙げることが困難なものについては、事業廃止を含め検討を行うこと。

(行政経営改革の取組)

- 5 限られた行政資源を効果的に活用するために、引き続き重点的に行政経営改革に取り組むこととするので、再度、足元からの見直しを行い、次の点に特に留意し、予算計上すること。

(1) 新たな自主財源等の確保

遊休資産については、引き続き、積極的な処分を進めるとともに、ネーミングライツの導入や更なる広告収入の確保など、職員の創意工夫による財源の創出に努めること。

(2) 事務処理コストの抑制

職員の負担軽減を図る観点からも、事務事業の見直しを進め物件費や時間外等勤務手当などの事務処理コストの抑制を図ること。

臨時職員の賃金については、雇用実態や実績を十分検証し、真に

必要な範囲で予算計上すること。

(3) 公共施設等のマネジメントの推進

公共施設の再編に向けた検討結果を踏まえ、人口減少、少子高齢化の進展等による市民ニーズの変化に対応した、施設の規模や機能の最適化を進めること。また、効率的な維持管理に取り組み、電力供給事業者の入札等により経費の縮減を図ること。

(4) 補助金等の見直し・受益者負担の適正化

補助金については、「補助金見直しに関するガイドライン」により見直しをおこなうこと。

特に市単独で実施している補助金については、制度設計の見直しにより国・県の制度への組み替えなど、市費負担の軽減が出来ないか検討すること。

使用料・手数料については、2019（平成31）年10月1日より消費税率の引上げがおこなわれることから、適正な転嫁を行うこと。

(国・県の動向等)

6 国・県補助金等については、制度改正や予算編成の状況など、国・県の最新の動向を注視しながら情報収集に努め、確実な見積りに努めること。

国・県の制度見直しがなされた場合、同様の制度見直しを原則とし、安易に市負担を増やす取り扱いをおこなわないこと。

また、各種団体の助成制度についても調査・検討し、積極的に活用すること。

(その他)

7 詳細な予算要求基準は、別途通知を行うので、指示事項を厳守の上、指定期日までに予算見積書を提出すること。

なお、予算見積書提出後、積算根拠等に変更が生じた場合は、速やかに財政課担当者と調整を行うこと。